

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第42週 （10月16日～10月22日）

★お知らせ

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第41週の2.50から第42週では2.80と横ばいです。県全域から報告があり、中央西で急減していますが、安芸で急増、須崎、中央東で増加しています。

病原体検出情報では第42週に須崎から搬入された検体（臨床診断名は不明発疹症）で **Respiratory syncytial virus A** が1例検出されています。

また、定点医療機関からのホット情報でもRSウイルス感染症の報告があがっているので注意して下さい。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。特に、低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患がある場合、神経や筋肉の疾患がある場合、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高まります。一方で、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があるため注意が必要です。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。

予防接種ワクチンはなく、患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。また、早産児や慢性呼吸器疾患を有するハイリスクな乳幼児には重症化予防のため、パリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）の投与があります。（本剤の添付文書では、投与に際しては学会等から提唱されているガイドライン等を参考とし、個々の症例ごとに本剤の適用を考慮することとされており、保険適用となっています。）

●厚生労働省 「RSウイルス感染症 Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

●国立感染症研究所 「注目すべき感染症 RSウイルス感染症」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/541-disease-based/alphabet/respiratory-syncytial/dsc/idwr-topic/7509-idwrc-1734.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第41週の2.53から第42週では2.60と横ばいです。中央西で急減、中央東で減少していますが、安芸、幡多で急増しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルスが10例、細菌の病原性大腸菌やカンピロバクター属菌を原因とする胃腸炎5例の報告もあります。

病原体検出情報では第42週に幡多から搬入された検体で **Norovirus GII NT** が1例、**Sapovirus genogroup unknown** が1例検出されています。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも13例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に冬場に流行しますが1年を通して発生しています。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）調理をする場合は、十分加熱（85℃で1分以上）しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○百日咳に気を付けて！

第 42 週の定点医療機関からの報告数は 0.07 と急増し、高知市では注意報値を超えています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。特に生後 6 ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。また、成人が感染した場合は、通常咳が長期にわたって持続するものの、典型的な発作性の咳嗽を示すことはなく、やがて回復に向かいます。軽症で感冒など他の疾患との鑑別が困難であり、菌の排出があるためワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要です。

感染予防にはワクチン接種があります。ワクチンは生後 3 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○手足口病に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第 41 週の 0.60 から第 42 週 1.00 と増加しています。中央西で急増、幡多、高知市、中央東で増加しています。

病原体検出情報では第 40 週に高知市から搬入された検体で Enterovirus 71 が 1 例、41 週に須崎と幡多から搬入された検体で Human herpes virus 6 が 2 例検出されています。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆野外活動の際にはマダニに注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用医薬品	約6時間		
イカリジン	5%	防除用医薬部外品	～6時間	12歳未満は使用禁止	
	高濃度製剤 15%	防除用医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

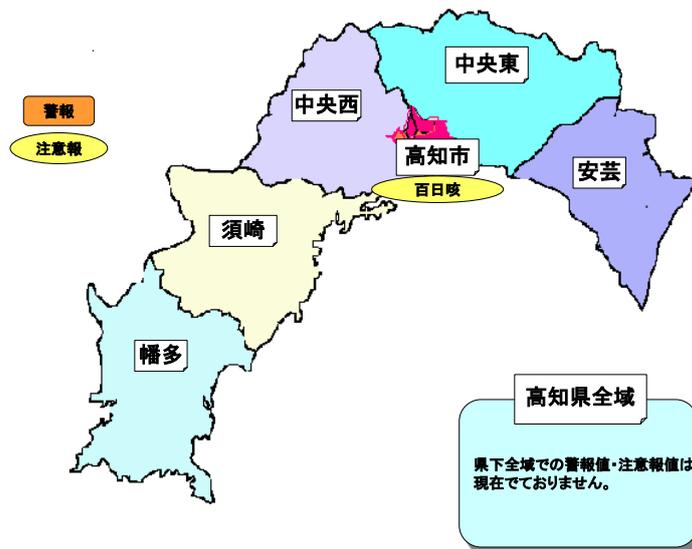
※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
RSウイルス感染症	→	2.80	中央西で急減していますが、安芸で急増、須崎、中央東で増加しています。
感染性胃腸炎	→	2.60	中央西で急減、中央東で減少していますが、安芸、幡多で急増しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	1.27	幡多、中央東で急減していますが、中央西で急増、県全域、高知市、須崎で増加しています。
手足口病	↗	1.00	中央西で急増、県全域、幡多、高知市、中央東で増加しています。
ヘルパンギーナ	↑	0.57	県全域、安芸、高知市、中央西、幡多で急増しています。

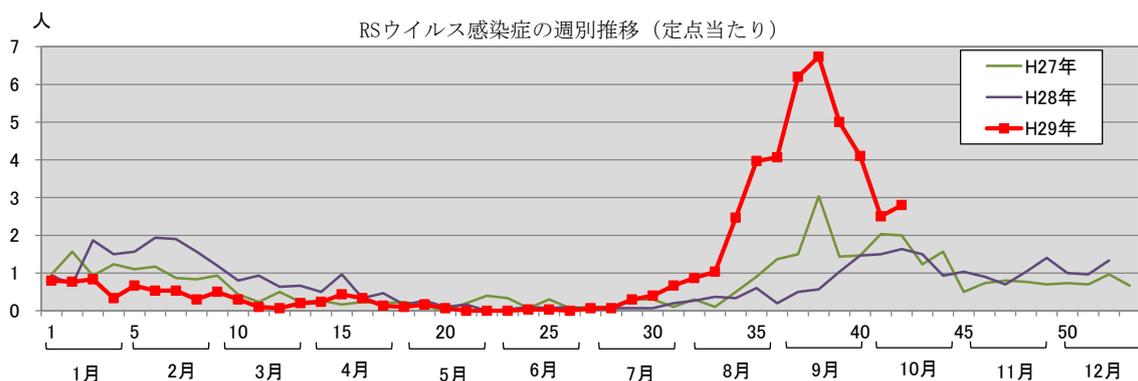
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

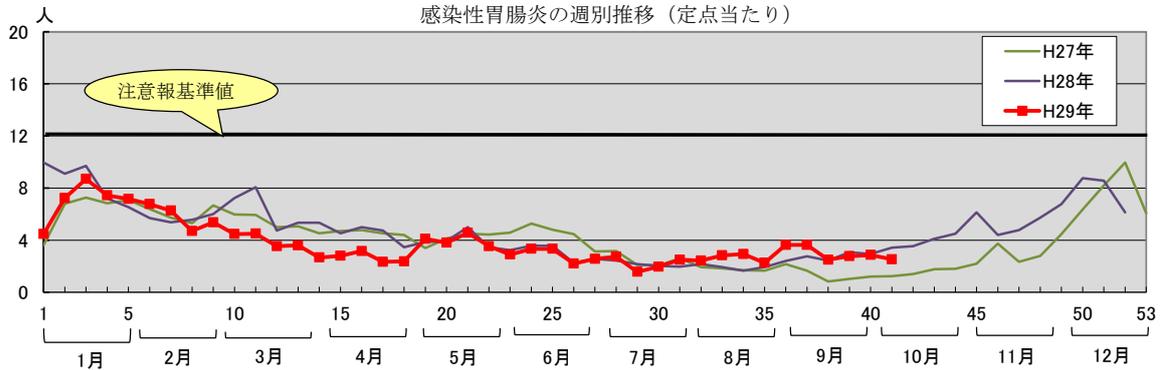
○RSウイルス感染症 第42週：2.80（注意報値：－ 警報値：－）

定点医療機関からの報告数は定点あたり2.80（前週：2.50）と横ばいです。中央西0.33（前週：1.67）で急減していますが、安芸1.00（前週：0.00）で急増、須崎3.50（前週：2.00）中央東3.00（前週：2.29）で増加しています。



○感染性胃腸炎 第42週：2.60（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.60（前週：2.53）と横ばいです。中央西 0.00（前週：1.33）で急減、中央東 2.29（前週：3.00）で減少していますが、安芸 5.00（前週：2.00）幡多 1.60（前週：0.60）で急増しています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	94	70歳代 女	須崎
		1		80歳代 女	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	20歳代 男	高知市
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	80歳代 男	
	梅毒	1	17	30歳代 男	須崎

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
42	不明発疹症	39℃, 咳嗽, 発疹,	1	男	須崎	Human herpes virus 6 Respiratory syncytial virus A
42	感染性胃腸炎	39℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	1	男	幡多	Norovirus GII NT Sapovirus genogroup unknown

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
40	不明熱（ヘルペス？）	41℃, 口内炎,	3	男	須崎	Cytomegalovirus
40	手足口病	発疹,	2	女	高知市	Enterovirus 71
41	ヘルパンギーナ	38℃, 上気道炎, 口内炎,	8ヶ月	女	高知市	Coxsackievirus A10
41	不明発疹症	40℃, 発疹,	1	男	須崎	Human herpes virus 6
41	手足口病	39℃, 下痢, 発疹,	1	男	須崎	Human herpes virus 6
41	手足口病疑い	38℃, 発疹, 口内炎,	10ヶ月	男	幡多	Human herpes virus 6

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	ノロウイルス感染性胃腸炎 1 例 (2 歳男) RS ウイルス感染症 4 例 (9 ヶ月男、2 歳男 3 人:管内の保育園で流行)
	高知大学医学部付属病院小児科	RSV 細気管支炎 1 例 (5 ヶ月男)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 11 例 (0 ヶ月女、7 ヶ月女 2 人、9 ヶ月男、 1 歳男 3 人、2 歳女 2 人、2 歳男、3 歳男) ノロウイルス 1 例 (1 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	RS ウイルス感染症 1 例 (1 歳男) 溶連菌感染症 13 例 手足口病 1 例 ヘルパンギーナ 2 例
	三愛病院小児科	マイコプラズマ気管支炎 1 例 (8 歳女)
	けら小児科・アレルギー科	ノロウイルス胃腸炎 2 例 (0 歳、3 歳) カンピロバクター腸炎 1 例 (11 歳) 病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (9 歳) 病原性大腸菌 O-20 腸炎 1 例 (16 歳) 百日咳 2 例 (7 歳男: LAMP 法陽性 9 歳女: PTIgG160EU/mL 以上)
	細木病院小児科	ノロウイルス 4 例 (7 ヶ月女、11 ヶ月男、1 歳男 2 人)
中央西	石黒小児科	水痘 1 例 (6 歳男: ワクチン 1 回接種済み)
須崎	もりはた小児科	帯状疱疹 1 例 (4 歳男) カンピロバクター腸炎 2 例 (8 歳男、9 歳男) ノロ陽性 2 例 マイコプラズマ肺炎 3 例 (10 歳男 2 人、13 歳男)
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ 2 例 (7 歳女、35 歳女)

★全国情報

第 40 号 (10 月 2 日～10 月 8 日)

1 類感染症: 報告なし

2 類感染症: 結核 324 例

3 類感染症: 細菌性赤痢 3 例、腸管出血性大腸菌感染症 86 例、腸チフス 2 例、パラチフス 1 例

4 類感染症: E 型肝炎 3 例、A 型肝炎 4 例、回帰熱 2 例

重症熱性血小板減少症候群 6 例、つつが虫病 1 例、デング熱 7 例、日本紅斑熱 7 例、
日本脳炎 1 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 28 例

5 類感染症: アメーバ赤痢 18 例、ウイルス性肝炎 2 例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 19 例
急性脳炎 9 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 6 例、後天性免疫不全症候群 12 例
侵襲性インフルエンザ菌感染症 4 例、侵襲性肺炎球菌感染症 27 例、
水痘 (入院例に限る) 5 例、梅毒 61 例、播種性クリプトコックス症 2 例、破傷風 2 例、
風しん 1 例、麻しん 5 例

報告遅れ: E 型肝炎 1 例、重症熱性血小板減少症候群 1 例、日本紅斑熱 2 例、レジオネラ症 6 例
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 12 例、急性脳炎 3 例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、水痘 (入院例に限る) 4 例、梅毒 40 例、
薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 例

★注目すべき感染症

◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染 (飛沫感染) であり、他に飛

沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

インフルエンザは、全国約5,000カ所のインフルエンザ定点医療機関（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）から、患者数が毎週報告されている。2017/18シーズン〔2017年第36週（2017年9月4～10日）以降〕のインフルエンザ定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較して、毎週平均+1標準偏差（過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均）を超えており、比較的高い値で推移している。2017年第40週（2017年10月2～8日）では定点当たり報告数は0.21で（第39週も0.21）、過去10週間（第31～40週）は、0.12～0.22の範囲で推移している。今シーズンの定点医療機関（全国約5,000）からの報告数の男女比は例年と同様で、15歳未満の年齢群では1.1:1とやや男性に多く、15歳以上の年齢群では1:1.3とやや女性に多かった。

全国約500カ所の基幹定点医療機関からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）においては、第36～38週は週当たり12～16例で推移していたが、直近の第39週と第40週では共に23例とやや増加した。また、今シーズンのインフルエンザによる入院患者の累積数は87例で、70歳以上の高齢者が40例と約半数を占め、10歳未満の小児は29例であった。

過去10週間の都道府県別定点当たり報告数は、沖縄県を除き2週間連続して1.00を上回る都道府県はなく、大きな増加はみられなかった。沖縄県は今シーズン開始より、毎週定点当たりの報告数は3.80以上で推移しており、第40週では6.12（第39週は6.59）であった。

インフルエンザウイルス型別の検出状況については、昨シーズンはAH3亜型が主流で、次いでB型であった。今シーズンはこれまでにAH1pdm09が23株、AH3が15株、B型（すべて山形系統）が14株検出されている。

例年のインフルエンザは、全国の定点当たり報告数が1.00以上（流行開始の指標）となる11月末から12月にかけて流行が開始し、ピークは1月末から2月上旬が多い。昨シーズン（2016/17シーズン）は第46週に定点当たり報告数が1.00を上回り、例年より立ち上がりがあった。今シーズンは、比較的高い値で推移しており、本疾患の発生動向を注視する必要がある。

今後、インフルエンザの流行期を迎えるにあたり、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の工夫が重要である。なお、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、あるいはヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。

.....

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第42週 平成29年10月16日(月)～平成29年10月22日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第42週							計	前週	全国(41週)	高知県(42週未累計) H29/1/2～H29/10/22	全国(41週未累計) H29/1/2～H29/10/15
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ								(0.00)	3 (0.06)	862 (0.17)	14,652 (305.25)	1,372,361 (277.86)	
小児科	咽頭結核熱		1	1			1	1	4 (0.13)	6 (0.20)	1,232 (0.39)	362 (12.07)	69,112 (21.91)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				29	2	4	3	38 (1.27)	30 (1.00)	4,542 (1.44)	2,124 (70.80)	280,618 (88.94)	
	感染性胃腸炎	10	16	40			4	8	78 (2.60)	76 (2.53)	9,022 (2.86)	4,726 (157.53)	667,937 (211.71)	
	水痘	1	1	7	5		2		16 (0.53)	7 (0.23)	753 (0.24)	485 (16.17)	43,136 (13.67)	
	手足口病		4	17	1			8	30 (1.00)	18 (0.60)	5,889 (1.86)	3,151 (105.03)	316,683 (100.37)	
	伝染性紅斑								(0.00)	(0.00)	189 (0.06)	109 (3.63)	9,913 (3.14)	
	突発性発疹	1	3	1	1			2	8 (0.27)	6 (0.20)	1,291 (0.41)	443 (14.77)	58,999 (18.70)	
	百日咳			2					2 (0.07)	(0.00)	25 (0.01)	24 (0.80)	1,249 (0.40)	
	ヘルパンギーナ	2	2	11	1			1	17 (0.57)	6 (0.20)	1,132 (0.36)	533 (17.77)	78,827 (24.98)	
	流行性耳下腺炎			1					1 (0.03)	3 (0.10)	945 (0.30)	184 (6.13)	67,486 (21.39)	
RSウイルス感染症	2	21	46	1	7	7	7	84 (2.80)	75 (2.50)	4,603 (1.46)	1,461 (48.70)	109,145 (34.59)		
眼科	急性出血性結膜炎								(0.00)	(0.00)	4 (0.01)	(0.00)	344 (0.50)	
	流行性角結膜炎								(0.00)	(0.00)	553 (0.79)	13 (4.33)	20,565 (29.63)	
基幹	細菌性髄膜炎								()	1 (0.13)	8 (0.02)	3 (0.38)	413 (0.87)	
	無菌性髄膜炎								()	(0.00)	13 (0.03)	7 (0.88)	782 (1.64)	
	マイコプラズマ肺炎			1					1 (0.13)	1 (0.13)	166 (0.35)	76 (9.50)	6,254 (13.11)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								()	1 (0.13)	2 (0.00)	10 (1.25)	208 (0.44)	
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								()	(0.00)	1 (0.00)	87 (10.88)	4,869 (10.21)	
計	(小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	48 (6.86)	156 (14.10)	11 (3.66)	18 (9.00)	30 (6.00)	279 (9.27)		31,232	28,450 (758.65)	3,108,901		
前週	(小児科定点当たり人数)	4 (2.00)	51 (6.99)	129 (11.54)	12 (3.99)	15 (7.50)	22 (4.40)		233 (7.62)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第42週							計	前週	全国(41週)	高知県(42週未累計) H29/1/2～H29/10/22	全国(41週未累計) H29/1/2～H29/10/15
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ								0.00	0.06	0.17	305.25	277.86	
小児科	咽頭結核熱		0.14	0.09			0.50	0.20	0.13	0.20	0.39	12.07	21.91	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				2.64	0.67	2.00	0.60	1.27	1.00	1.44	70.80	88.94	
	感染性胃腸炎	5.00	2.29	3.64			2.00	1.60	2.60	2.53	2.86	157.53	211.71	
	水痘	0.50	0.14	0.64	1.67	1.00			0.53	0.23	0.24	16.17	13.67	
	手足口病		0.57	1.55	0.33			1.60	1.00	0.60	1.86	105.03	100.37	
	伝染性紅斑								0.00	0.00	0.06	3.63	3.14	
	突発性発疹	0.50	0.43	0.09	0.33			0.40	0.27	0.20	0.41	14.77	18.70	
	百日咳			0.18					0.07	0.00	0.01	0.80	0.40	
	ヘルパンギーナ	1.00	0.29	1.00	0.33			0.20	0.57	0.20	0.36	17.77	24.98	
	流行性耳下腺炎			0.09					0.03	0.10	0.30	6.13	21.39	
RSウイルス感染症	1.00	3.00	4.18	0.33	3.50	1.40	1.40	2.80	2.50	1.46	48.70	34.59		
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	0.00	0.01	0.00	0.50	
	流行性角結膜炎								0.00	0.00	0.79	4.33	29.63	
基幹	細菌性髄膜炎								0.00	0.13	0.02	0.38	0.87	
	無菌性髄膜炎								0.00	0.00	0.03	0.88	1.64	
	マイコプラズマ肺炎			0.20					0.13	0.13	0.35	9.50	13.11	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								0.00	0.13		1.25	0.44	
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								0.00	0.00		10.88	10.21	
計	(小児科定点当たり人数)	8.00	6.86	14.10	3.66	9.00	6.00	9.27			758.65			
前週	(小児科定点当たり人数)	2.00	6.99	11.54	3.99	7.50	4.40		7.62					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2017年10月23日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。